

ウンカ類情報第3号（トビイロウンカ）

令和6年8月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

近隣県でも誘殺が確認されています 幼虫期に本田防除を実施しましょう

1 発生状況

予察灯において、7月2日に長久手市でトビイロウンカが1頭誘殺されました。なお、7月下旬までの本田調査においては発生を確認していません。

また、三重県の予察灯でも7月20日及び25日に誘殺が確認されています。

県内の他地域においても飛来している可能性がありますので、発生動向に十分注意してください。

2 トビイロウンカによる被害の特徴について

トビイロウンカによる被害は、イネの出穂期から登熟期にかけて数十株から数百株がまとまって不規則な円形に枯れる坪枯れを引き起こすことが特徴です。

また、ほ場の一部で葉が淡く変色することが坪枯れの初期症状となります（図）。

これらの被害は、トビイロウンカ第3世代の成長に伴って引き起こされますので、ほ場における発生動向に注意しましょう。

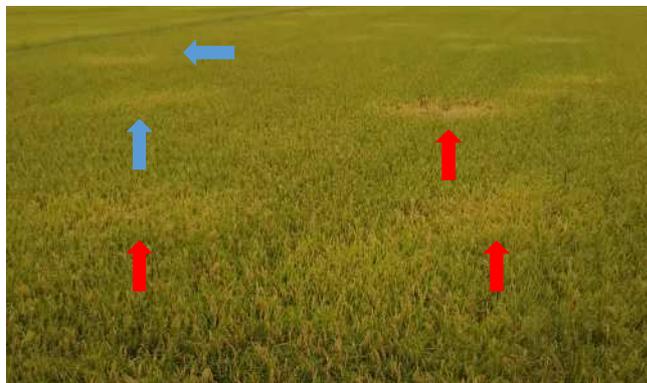


図 坪枯れ（赤矢印）及び坪枯れの初期症状（青矢印）

3 防除対策

トビイロウンカの防除適期は幼虫発生期（第二世代までに防除）となります。長久手市の予察灯で誘殺があった7月2日の直近の飛来予測日（※）である6月28日を基準に、幼虫期の予測時期について有効積算温度をもとに計算しました（表）。ほ場におけるトビイロウンカの発生動向、移植時期及び育苗箱施薬による防除の有無などを考慮し、表を参考に防除を検討してください。トビイロウンカは株元に生息しているので、液剤及び粉剤による防除を行う場合は、薬剤が株元まで届くように散布してください。

坪枯れの初期症状が確認された場合は、トレボン乳剤（収穫14日前まで）などによる速やかな防除の実施、または収穫期が近い場合はできるだけ早く収穫しましょう。

※本県への飛来に適した気象条件の発生日（日本植物防疫協会 海外飛来性害虫飛来予測システム）

表 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカの幼虫期の予測時期（8月2日計算）

飛来予測	愛西	名古屋	岡崎	新城	豊橋
第二世代	8月16日	8月16日	8月16日	8月16日	8月11日
幼虫	～8月28日	～8月28日	～8月28日	～8月29日	～8月23日
6月28日	（参考）坪枯れ発生の可能性がある時期				
第三世代	9月15日～	9月13日～	9月15日～	9月16日～	9月8日～
幼虫					

各地のアメダス平均気温から、有効積算温度計算シミュレーション（日本植物防疫協会）により予測した。8月1日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算した。